

=== T A C S 情報 第2号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和元年6月4日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月中旬の平均気温は、18.9℃（対平年差+2.3℃）と平年よりかなり高かった。

5月下旬の平均気温は、21.5℃（対平年差+3.3℃）と平年よりかなり高かった。

(2) 降水量

5月中旬の降水量は、16.5mm（対平年比32%）と平年より少なかった。

5月下旬の降水量は、65.0mm（対平年比187%）と平年より多かった。

(3) 日射量

5月中旬の平均日射量は、24.1MJ/m²/日（対平年比144%）と平年よりかなり多かった。

5月下旬の平均日射量は、22.9MJ/m²/日（対平年比123%）と平年よりかなり多かった。

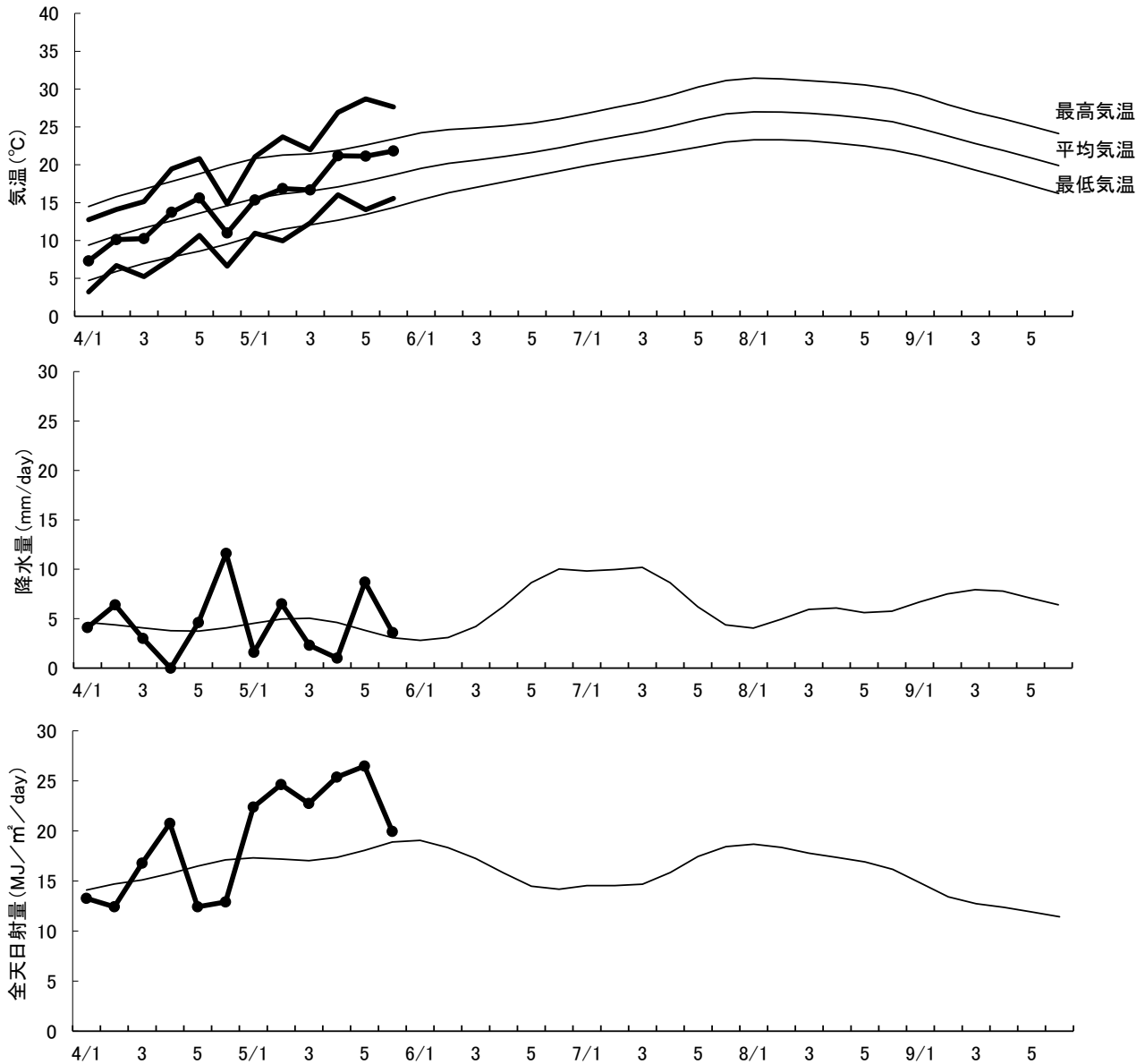


図1 平成31年および令和元年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

(1) コシヒカリ

平年に比べて、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢はやや進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数および葉色は平年並みとなっている。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R元	5月14日	28.9	10.1	221	6.6	4.3	36.3
H30	5月14日	27.2	8.6	189	6.2	4.2	35.7
平年	5月14日	27.4	8.1	169	6.1	4.1	34.2
前年比・差	0	106	118	117	0.4	0.1	0.6
平年比・差	0	105	126	130	0.5	0.2	2.1

注) 平年 : H21~30年の平均

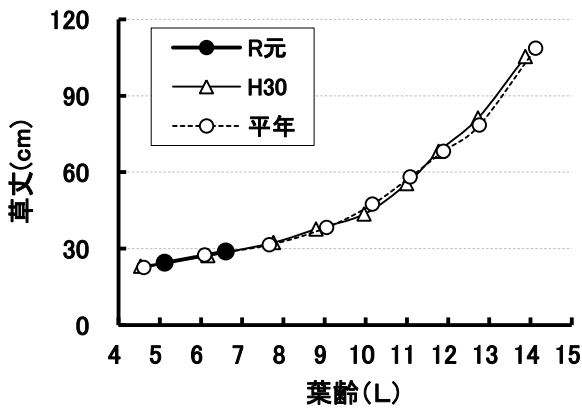


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

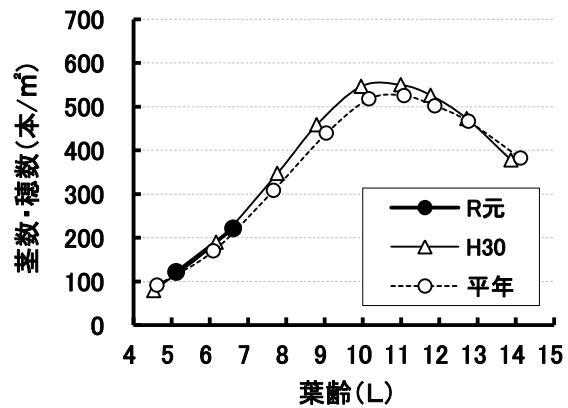


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

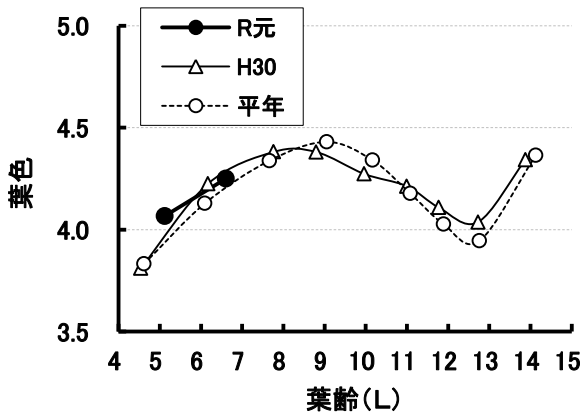


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

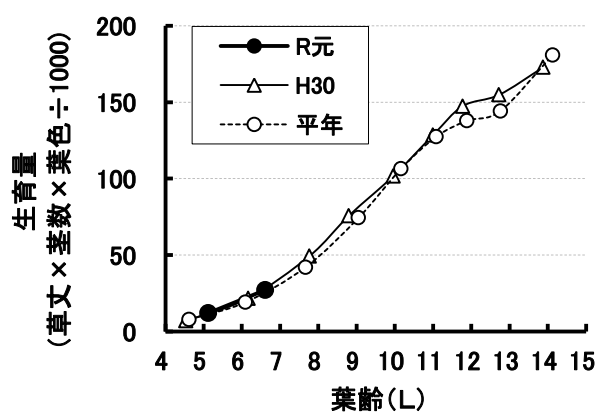


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(2) てんたかく

平年に比べて、草丈はやや長く、茎数はかなり多く、葉齢はかなり進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数は平年並み、葉色はやや濃くなっている。

表2 「てんたかく」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R元	5月3日	29.5	16.8	360	8.3	4.7	41.5
H30	5月5日	27.0	11.3	252	7.6	4.5	39.1
平年	5月6日	28.1	13.0	271	7.5	4.5	39.7
前年比・差	-2	109	149	143	0.7	0.2	2.4
平年比・差	-3	105	129	133	0.8	0.2	1.8

注) 平年 : H21~30年の平均

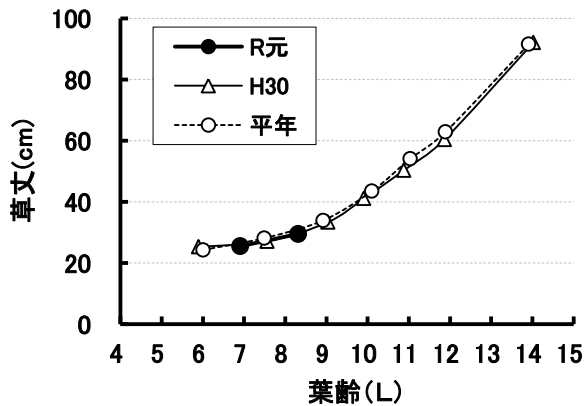


図6 草丈の推移（生観てんたかく）

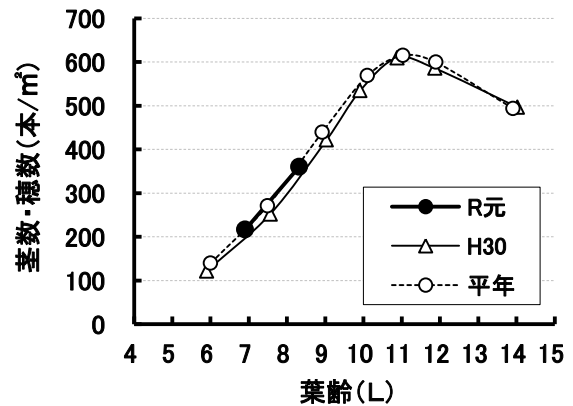


図7 茎数の推移（生観てんたかく）

(3) てんこもり

平年に比べて、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉齢は進んでいる。
葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は平年並み、茎数は平年より多くなっている。

表3 「てんこもり」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R元	5月8日	27.7	19.7	375	7.9	4.5	39.8
H30	5月7日	24.6	14.0	277	7.6	4.5	40.4
平年	5月8日	25.0	12.1	227	7.2	4.4	38.6
前年比・差	1	112	140	135	0.3	0.0	-0.6
平年比・差	0	111	163	165	0.7	0.1	1.2

注) 平年 : H21~30年の平均

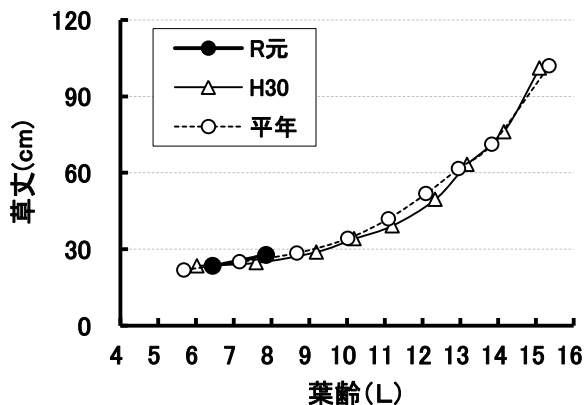


図8 草丈の推移（生観てんこもり）

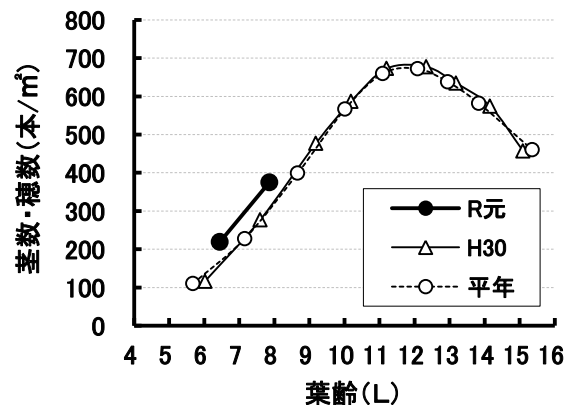


図9 茎数の推移（生観てんこもり）

3 当面の技術対策

- ・生育が平年に比べて2～4日程度早くなっており、茎数も急速に増加していることから、溝を設置していないほ場では、溝掘りを早急に行うとともに、中干しを遅れずに実施して、稲体の健全化を図る。

(1) 溝掘り・中干しを徹底

- ・いずれの品種でも、葉齢展開が早く、茎数も急速に増加していることから、溝掘りを早急に行うとともに、中干しは田植え後1か月までに遅れないように必ず実施する。
- ・溝掘りは、5 m (15～17 条) に1本を目安に必ず行き、ほ場への入排水の効率を高める。

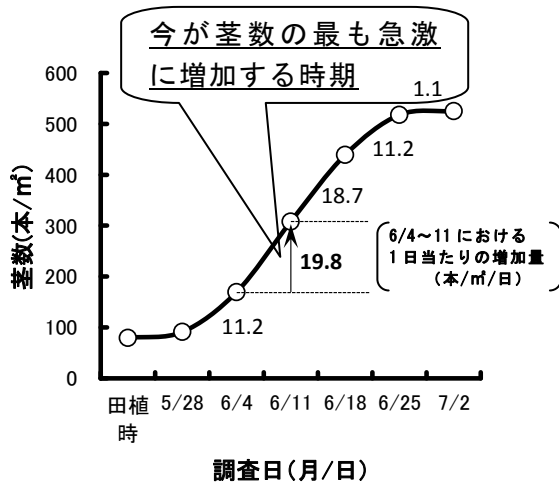


図 10 茎数の推移

注) 生育観測ほ H21～30 の平均

図中の数字は、1日当たり増加量(本/m²/日)

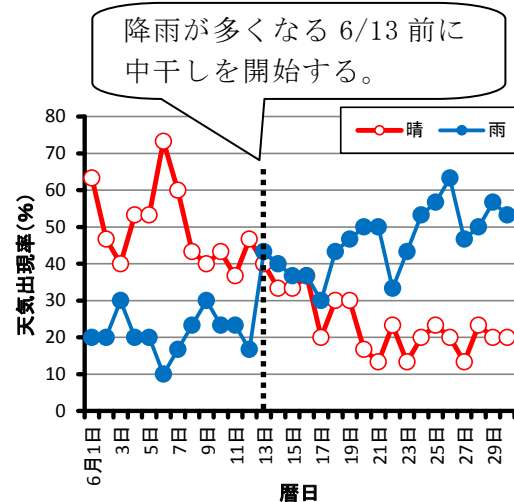


図 11 富山の6月の日別天気出現率

注) 富山地方気象台、統計期間 1981～2010

(2) 雑草防除を的確に

- ・雑草の発生がみられた場合は、雑草の種類と生育期に応じて、適切な中・後期剤を散布する。
- ・除草剤の散布にあたっては、使用基準を厳守するとともに、湛水散布の場合、散布後7日間は止水管理(「落水」や「かけ流し」をしない)とし、水田外への流亡を防ぐ。

(3) 病虫害防除を徹底

<いもち病>

- ・平年の葉いもちの初発確認日は、7月6日である。
- ・苗箱施薬を施用していない場合は、予防粒剤を6月20日頃までに散布する。
- ・県内では、6月1日に葉いもちの準感染好適日が出現している。BLASTAM 情報(農業研究所)を参考に、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM 情報(葉いもち予測システム) HP の URL

http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link_flat.phtml?TGenre_ID=314&t=pdf2

(農林水産総合技術センター農業研究所 HP の研究関連情報に掲載)

<カメムシ類>

- ・畦畔等におけるカメムシ類のすくい取り虫数は多くなっている。今後、気温が高くなると予報されており、発生量が多くなると見込まれるので、イネ科雑草の穂が出ないよう草刈りを徹底する。
- ・本田内のノビエやホタルイも、カメムシによる被害を助長するので、除草を徹底する。

※ 草刈り運動期間：7月1日～10日 一斉草刈り日：7月6日～7日

「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

1 生育状況（実証ほデータ）

前年に比べて、草丈は並み、茎数はかなり多く、葉齢はやや進んでいる。
 葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は前年並み、茎数は多くなっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月4日 生育観測ほ）

年次または 試験内容	ほ場数 (筆)	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色	
				(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R元	12	5月13日	26.4	10.6	226	6.5	4.4	36.9
H30	19	5月15日	25.5	8.1	176	6.1	4.3	36.3
H29	16	5月14日	26.9	8.4	173	6.2	4.2	36.4
前年比・差		-2	104	132	128	0.4	0.1	0.6
早期田植栽培	6	5月4日	27.8	15.7	336	7.8	4.6	40.7
高品質安定栽培	6	5月15日	25.4	10.0	220	6.2	4.4	36.5

注) R元・平均: 生育観測栽培と高品質安定栽培・対照区(合計12ほ場)の平均

H30およびH29: 特別栽培米を除く、それぞれ19および16か所の平均

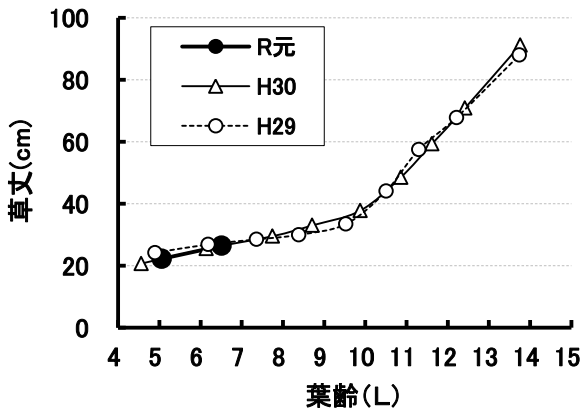


図1 草丈の推移（富富富実証ほ）

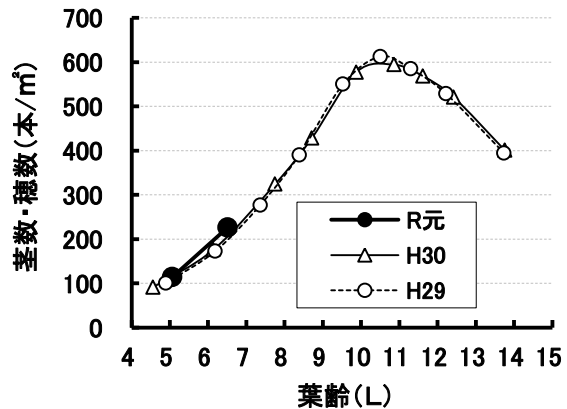


図2 茎数の推移（富富富実証ほ）

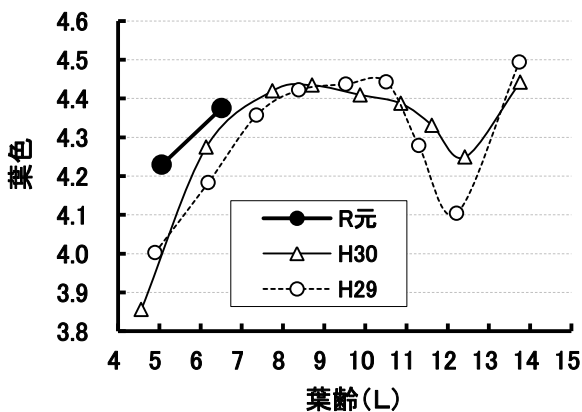


図3 葉色の推移（富富富実証ほ）

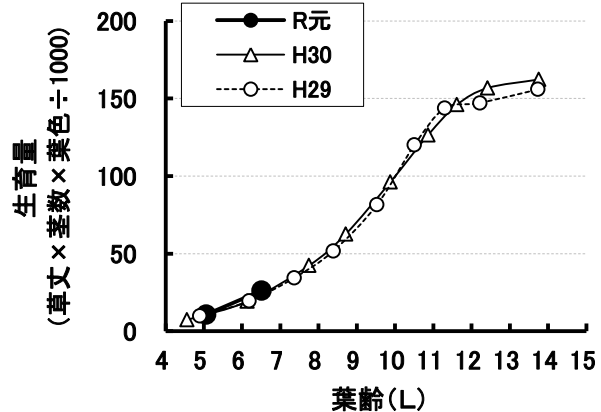


図4 生育量の推移（富富富実証ほ）

2 当面の技術対策

- ・生育が前年に比べて早く、茎数も急速に増加していることから、溝を設置していないほ場では、溝掘りを早急に行うとともに、中干しは田植後1か月までに遅れないように確実に実施する。

(1) 溝掘り・中干しを徹底

- ・前年に比べて、葉齢展開が早く、茎数も急速に増加していることから、溝掘りを早急に行うとともに、中干しは田植後1か月までに遅れないように確実に実施する。

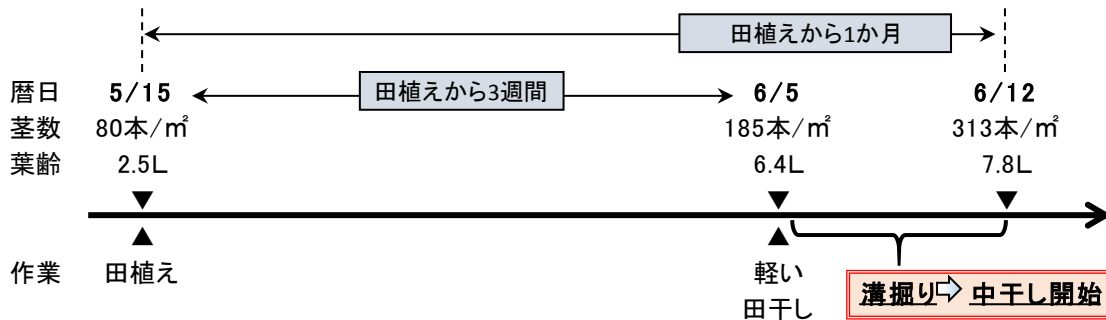


図5 溝掘りおよび中干し実施のイメージ

注) 茎数：H29、30実証ほの平均値

(2) その他の管理

病虫害および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通しての化学合成農薬の成分使用回数が12以内となるように留意する。